

入園式

2024. 4. 11

4月9日（火）は、入園式だった。前日は、小学校と中学校の入学式だった。今までの記憶をたどってみた。入園式に出たことがあった。確か娘の入園式だった。園長先生が話された内容は、さすがに覚えてはいない。だが、話しているその場の光景は今でも浮かんでくる。校長先生とは違った味わいがあった。親に向けて、幼稚園教育の要諦のようなものを話していただいた記憶がある。素直に親として勉強になったのである。

そういえば、小学校の校長を務めているときだった。近くの幼稚園の卒園式に来賓として参加し、祝辞を述べたことがあった。何を話そうか。果たして、聞いてもらえるのだろうか。あれこれと心配しながら出かけた覚えがある。よく考えてみると、普段から小学1年生に向けて話しているのだから、その一つ年下の子どもと思えばいいということに気づいた。実際に話してみると、意外と聞いてもらえた。先生方のご指導の賜物であろう。

入園式でも、園長式辞がある。今までと同じようにノー原稿にした。今回は、迷わずそうした。小さな園児を前にして、原稿を用意し、それを読む気にはなれない。新入園児は、12名だった。呼名があった。全員の子が、元気よく返事してくれた。なかなか立派である。式辞の中で、まずはそのことを褒めた。そして、園長先生との2つの約束について話した。毎日お家の人と元気よく幼稚園に来ること、名前を呼ばれたら元気よく「はい」と返事をするものの2つである。

式には、一つ先輩の園児も参加していた。昨日の始業式で新しい園長先生を“まさお園長先生”と呼ぶように仕込んだ。入園式の中で、覚えているか確認したところ、ちゃんと覚えていた。よかった。

保護者の方は、どのような気持ちで入園式を迎えたのだろうか。我が子の成長に感慨もひとしおというところだろうか。小学校でも中学校でも高校でも、そして幼稚園でも、このような式は、人生の節目として必要なものであろう。

仕事で外へ出た。ちょうど県立高校の前を通った。入学式が終わったタイミングだった。入口の立て看板の前で記念撮影をしていた家族が目にとまった。みんな笑顔である。高校入試の難関を突破してのハレの日である。これから充実した高校生活を送ってほしい。

今回は、園長として初めて臨んだ入園式だった。保護者の方に「ブログ読んでいます」と声をかけていただいた。この「園長通信～こころ～」も、これから読者の皆さんに支えられていくことだろう。本日は、私の園長生活が、実質的にスタートした節目の日である。